

研究室がリニューアルされました！



コロナの影響も少しずつ改善され始め、研修室の活気もだんだんとよくなっています。B4の皆様もようやく研究室に来て本格的に研究活動が始められるということでやる気に満ちあふれていると思います。しかし、いざ研究を始めようとするとき「あの端子のケーブルある？」とか「あのカメラはどこに行った？」など出鼻をくじかれる可能性があります(実際に1日中ケーブルを探しまわった経験が…)。そこで！7月の初旬に大掃除を行いました!!掃除に参加していただいた院生の皆様は本当にありがとうございます。研究に必要な機材は403に整理されているので簡単に見つけることができるかと思えます(機材の保管場所や使うときの教授への確認の有無などをまとめたリストを目下製作中です)。また、402にGPUマシンがまとめられたり、404の今にも倒れそうな棚を撤去したりしているので、これからもより良い研究室を作っていきます！

執筆: 深見政徳(設備・安全係)

ゼミ集計結果

6月26日～7月17日に行われた全体ゼミでの質問回数を集計しています。

例) 氏名	今月の回数(累計)	
深見	5回(8回)	添島 4回(7回)
村上玲	4回(6回)	田中 3回(6回)
坂口	3回(5回)	吉田 3回(5回)
鮎川	2回(3回)	江口 2回(3回)
窪園	2回(4回)	古賀 2回(3回)
城	2回(3回)	淵田 2回(3回)
徳丸	2回(3回)	綾部 1回(2回)
安藤	1回(2回)	大下 1回(2回)
黒川	1回(2回)	高柳 1回(5回)
宮川	1回(2回)	宮田 1回(3回)
村上綾	1回(2回)	山口 1回(2回)
山田	1回(2回)	坂上 0回(2回)
築地	0回(0回)	山下 0回(0回)

各ゼミで最低1回の発言を心がけましょう。

8月の予定

8月は、院生(M1・M2)の中間発表終了後より夏休み期間となります。

7日(金) 中間発表(M1・M2)
8月8日(土)～9月10日(木) **夏休み**

1カ月ほど夏休みに入りますが、休み明けには中間発表も控えているので計画的に研究に取り組みましょう。

詳細は、以下のリンクより各自で確認をお願いします。

今後の予定

先月号に引き続き、大学院2年生を対象に以下の項目で就活アンケートを行い、匿名でいくつかピックアップして掲載しています。これから就職活動を控えている人の参考になればと思います。就職活動や大学院進学に関して「こんな情報が欲しい。」などの要望があれば、アンケートにて受け付けています。

Q.就職活動を終えて大事だと感じたこと

「自分が働いている姿を想像する」ことです。どんな事に取り組んでいる会社なのか、入社後、どんな仕事に携わるのか、例えば、システムエンジニアと一口に言っても、会社によって携わる仕事は様々です。就活サイトを活用して情報収集することも多いと思いますが、お給料やネームバリューなど、目先の情報にとらわれず、就活イベントに参加して実際に話を聞くなど、能動的に取り組んで、自分が将来その会社で働くイメージを膨らませながら、就職活動を頑張ってもらいたいと思います。

使える手段は全部使うことです。リクナビなど就活サイトでは、色々な企業の情報を入手出来たり、専属のサポーターがついて面接対策や企業との連絡を代行してくれたりします。また、学校推薦を利用することもおすすめです。書類選考や面接の免除などをしていただけたので、かなり気持ちが楽になりました。そのほかにも世の中には便利な就活ツールがたくさんあると思うので、しっかりアンテナを張りましょう！

志望する企業の長期IS(インターンシップ)に行くことです。ISは本選考に関係ないと言われますがそんなことはありません。ISに参加した人に対して特別選考のルートを用意している企業は多いです。ISに参加することは志望度のアピールや企業理解、実際の仕事を知るきっかけになるためいい事ばかりです。さらには早期で就活も終了することができ、精神的にも安定します。スタートダッシュが肝心です。もし少しでも気になる企業があればISに参加することも考えてみてください。22卒の就活は来年3月からではありません。もう始まっています。

同じ職場かどうかはさておき自分が生涯4,50年間は働く必要があるのは間違いないのでその上で何がしたいか、何がストレスになりうるかは明確にすべきだと思います。自分は人間関係を1から築き上げるのが苦手なこともありそこで働いている人たちの人柄は重視していました。内定先は本学科のOBが多く、情報収集しやすかったのもあり信頼しています。また、業界研究でも履歴書的话题を作るでも現場を知っている方が有利です。希望する企業で直接アルバイトできなくても似た業界でアルバイトして情報と経験を得るのもいいと思います。

Q.就職活動中の失敗談

「周りの就活状況を気にしすぎてしまったこと」です。周りの人が早い段階で内定をもらって就職活動を終了した、大企業から内定をもらったなど、周囲の就活状況に影響を受けすぎたように思います。冷静に考えてみれば当たり前のことですが、就職活動中は、気持ちがナイーブになってしまい、当たり前のことに気が付きませんでした。皆さんは、他者の就活状況に一喜一憂せず、自分のペースで頑張ってください。

自分は3月に内定をいただいて、コロナ禍手前というのもあり大事をとってそのまま就活を終えました。経験した場数という意味では失敗したなと思います。早々に内定を貰っても、やっぱり選択肢は多ければ多いほどいいです。結局コロナ禍でもオンライン主体の就活が可能で距離のハンデを気にする必要もなくなりました。もっと粘ってもよかった気がします。もっと自分に合う企業があるかもしれないと色々見て回るフットワークは必要だと感じました。

みなさん面接対策はしっかりすると思いますが、私が失敗したことは「回答を1つしか用意してなかった」ことです。私は面接で聞かれそうなことリストを作り、それを聞かれた際に自信満々に答えることができていました。しかし、答えたあと「他には？」と聞かれ沈黙してしまったことがあります。長所や短所、志望理由などよく聞かれる項目については最低3個回答を用意しておきましょう！

Q.就職活動中の失敗談

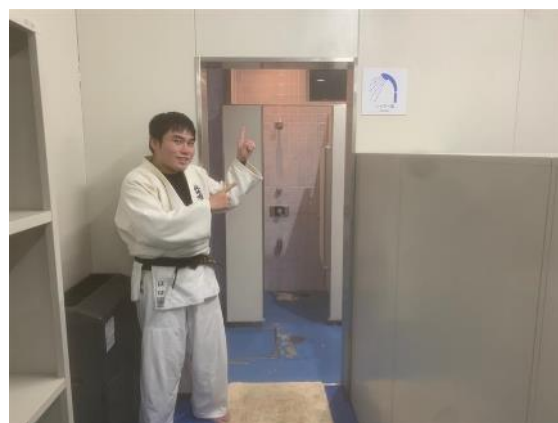
「自分がやりたい仕事」というものにこだわりを持っていなかったことです。当初、私は見栄や体裁、世間体で企業選びを行っていました。そのため、自分らしい就活がしづらかったように感じます。面接時に仕事や職種について自分の考えを聞かれることが多々ありましたが、仕事内容になんのこだわりもない私の回答は就活サイトに載っているようなありきたりなものになってしまい、面接官を納得させることが困難でした。自分の考えをしっかりと持って就活に挑んでいただければ、どんな企業であっても内定を獲得できるチャンスがあるはずです。

今月のコラム テーマ「暑い夏を乗り切ろう！」

「夏といえば,,,」

筆者:江口 大雅(福田研B4)

これまでの夏って何してたんだろって考えたら、高校生までは部活、部活の毎日で、大学生になったら集中講義か実習かバイトか入院してるかとなんだかパツとしなくて振り返ってて笑いました(￣▽￣) 余談はこんな感じで、今回は自分の夏の習慣を紹介したいと思います。それは「水浴び」です！水浴びと言っても、ただ冷水のシャワーを浴びるだけです(笑)高校生までは、空調禁止で水浴びするしか涼しくなる方法がなかったのでその習慣が残ってるんだと思います。ちなみに今は、ガンガン空調使ってます(笑)水浴びしたら、割と体温が下がって涼しく過ごせるのでオススメです。良ければ、やってみてください！風邪には気をつけてくださいね^ ^



「一人暮らしの夏」

筆者:城 直樹 (奥村研B4)

今年も夏がやってきました。夏は野菜を美味しく食べることができる季節ですが、私は、一人暮らしかつ面倒くさがりなので、レンジで調理できるもの(よだれ鶏やナムルなど)ばかり作っています。そんな私の中で皆さんにおすすめしたい夏野菜を使った料理があります。それは、きゅうりの漬物です。これは、きゅうりを叩いて調味料を入れるだけなのでとても簡単です。加えて、調味料次第で様々な味を楽しむことができます。そして、何より食感が病みつきに…。今回写真では、居酒屋風やみついきゅうりを載せています。みなさんもぜひ作ってみてください。



「家族と涼しく過ごす夏」

筆者:村上 綾 (山口研B4)

みなさん、暑い夏をいかがお過ごしでしょうか。夏といえば「そうめん」を食べる人もいらっしゃるのではないのでしょうか。私は、小さい頃から夏になると必ずそうめんを食べています。小学生の頃はキャンプ場で流しそうめんをし、中学生になると、涼しい部屋で氷の入った冷たいそうめんを家族揃って食べていた記憶があります。高校、大学と親元を離れて過ごしてきたため、「家族みんな」で食べることは減りましたが、それでもそうめんは毎年食べています。夏はお盆の時期に家族みんなが揃うので、その都度、家族揃って食卓を囲むのはいいなと感じています。みなさんも家族や友達とそうめんを食べて、涼しく夏を過ごしてみたいはいかがでしょうか。



オンライン飲み会



6/26にオンライン飲み会を開催しました。初めてのオンライン飲み会でしたが、4時間近く飲んで話してとても楽しい会になりました。自宅でのみなさんの知らない一面が知れて楽しかったです。個人的には、福田先生が優しいお父さんをしている家庭の様子が見られたことがほのぼのして良かったです。次回は9月末に開催したいと考えていますので、今回参加できなかったみなさんも是非ご参加ください！

執筆：添島克駿(レクリエーション係)

研究室っていったいなんだろう？

振り返ってみると、自分には「就活」「企業への就職」を全く経験しないまま今現在に至っており、実に33年以上を「研究室」で過ごしてきました。最初に所属した研究室は、「卒業できればよい」という意識低い系学生がほとんどで、配属3ヶ月後に東京大から赴任してきた花泉弘講師の研究室に早々に移籍をしました。これが、「リモートセンシング」との出会いになり、それが「一生の仕事」になりました。また、同じ時期に福田先生が関係していた筑波の産業技術総合研究所からニューラルネットの専門家である永野俊教授も赴任され、脳科学やニューラルネットとの出会いとなり、現在の「機械学習」に触れるきっかけとなりました。

研究室の移籍して間もなく、宇宙開発事業団(現JAXA)から、顔の非常に濃いある研究者が研究講演をしに来たのですが、それが新井康平名誉教授でした。当時はまさか将来同じ大学で一緒に研究・教育に携わるとは思ってもみませんでした。その後、千葉大学の博士課程に進んだのですが、ここでの指導教官が国立環境研究所でレーザーダを研究していた竹内延夫教授でした。この先生は、深夜だろうと早朝だろうとアイデアが浮かぶとすぐ電話をかけてくるし、平気で「国際的に」ダブルブッキングする人だったので、研究室に、パスポート、着替え、スーツケース等を持ち込み、寝袋で泊まる生活になりました。「奥ちゃん、悪いけど、来週スイスの学会でしゃべってきてくれない？」なんてのは日常茶飯事でした。そこで培われたのは、研究に関する知識とは全く関係のない「強靱な体力と精神力」、「下手な英語でもなんとか伝えようとするクソ度胸」でした。今思い返してみると、研究室では、学生相互のディスカッションや切磋琢磨、先生や新しい知識との出会い、日本語や英語を駆使したコミュニケーション能力向上ができる場所なんだと思います。皆さんも、どんどん若い柔らかい頭脳で新しい知識を増やして、私たち教員の「こり固まった脳」に刺激を下さい。また、外国人留学生と英語で話し、国際学会にも積極的に参加して下さい。



インドネシア・ボゴール農業大学でのセミナー風景

（執筆：奥村 浩）

編集後記

こんにちは、広報係の村上です。先月の広報誌アンケート集計結果より、広報誌名が「月刊マガラボ」に決定しました。皆さんのアンケート回答やご意見のおかげで、この月刊マガラボも少しずつではありますが、形になりつつあります。ご協力本当にありがとうございます。さて、来月からは広報誌デザインのリニューアルを考えているので、楽しみにしててください。



アイデアはコチラまで